

## 検討すべき課題として提示された問題点の進め方（案）

## 1 小国地域女性と子供が過ごしやすい環境の整備に関すること

## &lt;要旨&gt;

地域の活動に女性や若者の意見を反映させ、生きがいのある、住みやすい小国地域を作り上げる。来年度の地域委員会の主要活動目標として位置づけ、取組みすることとする。

## &lt;意見&gt;

- (1) 地域活性化を図るために、女性、子供の意見が集落やお祭り、地域行事に反映されることが望まれるが、その機会が少なく、女性や子供が、住みにくい原因になっているとの指摘があった。
- (2) 現在、活動を開始している「地域づくり交流会」に、市民生活課を通じて、交流会議の話題にしてもらう。
- (3) 地域に小学生が増えない理由を考えると、入学直前に来迎寺や宮内、柏崎に若手夫婦が子供同伴で引越す事例が多い。地元で子育てできる利点や地元で生活する安心感を与えられる対策が必要である。
- (4) 小学校の在校生が少なく、安心して子供を預けられない。子供がいっぱいいる地域の小学校を選びたいとの考えがある。  
地域の意見を集約して、充実した教育環境を整え、小学校を魅力ある場として改善する必要がある。
- (5) お祭りや集落組織に女性や子供のお声を引き上げるにも、勤務や家事との関係で、時間が取れないとの意見も多い。直接、役員にならなくても、SNS（ソーシャル・ネットワーク・システムの略称）を活用して意見を反映させられれば、組織が活性化する。  
支所を核とした安心、安全なSNSが構築できないか。
- (6) 支所からの一斉放送（オフトーク）が廃止されてから、消防団の召集や各組織の緊急連絡体制に不備が目立っている。過疎地における連絡体制として携帯電話を活用したSNS（ソーシャル・ネットワーク・システムの略称）を活用できないか。
- (7) SNSは、個人情報保護や使い方でもまだ十分な体制が整えられていない。それらも考慮する必要がある。
- (8) 地域手作りカワラ版等を活用できないか。  
6, 7で集約された意見やアンケートの結果をまとめ、地域や組織の瓦版として発行し、地域の行事やお祭りを盛り上げてはどうか。

2 地域のお祭りや行事を観光客誘致や産業振興に活用できないか。

<要旨> もちひとまつり、雪上エンジェーロ等を観光や産業振興に生かし、観光客の誘致や地元の特産品の販売に結び付けられないか。  
各種組織間の連携を取りながら、来年度の地域委員会の課題として検討を継続する。

<意見>

- (1) 小国地域には、郷土料理や特産物がいっぱいあると言われるが、イベントをやる場合に、参加して貰える個人や団体が未成熟である。参加したいが、人手や経費面で動けない面がある。
- (2) アオーレを活用した小国町の情報発信も可能である。参加すれば評判は良いが、イベントを通して、収益を確保することが難しい。
- (3) 地域内の各種団体が、互いに連携し合えば、イベントを効果的に活用し、収益確保が可能な体制ができるのではないか。
- (4) キャラクター「おぐりん」を活用した情報発信を具体化する。